

多胎妊娠分科会の記録

分科会長 倉智敬一

多胎妊娠分科会・昭和55年度第1回研究会

分科会長名：倉智敬一

日時：昭和55年9月17日 午後4時～8時

場所：鉄道会館ルビーホール（東京都）

出席者：倉智敬一、五十嵐正雄、斎藤幹、藤井裕、石丸忠之、佐々木謙司、木下勝之、高林俊文、青野敏博
議事録：

まず倉智分科会長より本研究班の構成および分科会に与えられた課題について説明があり、次いで本分科会の昭和55年度の活動方針案の提案と理由説明がなされた。

第2の作業として各班員及び研究協力者より研究方針の提示と討議を行った。研究方針として、大阪大学は血中エストロゲン測定により多胎妊娠の予防の可能性について検討することが表明された。東京大学は多胎妊娠の転帰についての統計調査と、卵胞発育を超音波断層法によりモニターする方針であることが述べられた。群馬大学では新しいスケジュールによりHMG-HCG療法の多胎妊娠率を低下させる可能性を探ることを表明した。和歌山医大からは動物実験的にgonadotropinによる多発排卵を予防する可能性について検討することが報告された。東京医科歯科大学は卵胞発育の尿中エストロゲン測定によるモニタリングと、多胎妊娠の早期発見と各種合併症の抑制策について研究する旨報告があった。長崎大学からはHMG-HCG療法時に血中エストロゲンを測定し、同時に超音波断層法も併用して合併症の予防を試み、妊娠した場合にはその予防に関して調査することが示された。

終りに日本大学（小児科）からは鹿児島で出生した5つ子の心身の発達の記録を残したい旨の発言があった。

第3には班員と研究協力者でペアを作ることになり、研究の内容や地理的な関係を考慮して東大-阪大、群馬大-和医大、東京医歯大-長崎大と3つのペアを作った。

終りに事務局の東北大学より研究報告書および会計報告書のまとめ方について注意がなされた。次回昭和56年2月に第2回の研究会をもつことを約して散会した。

多胎児妊娠分科会・昭和55年度第2回研究会

分科会長名：倉智敬一

日時：昭和56年2月24日 午後1時30分～5時

場所：新阪急スカイルーム（大阪市）

出席者：倉智敬一、青野敏博、荻野瑠美、田坂慶一、木下勝之、岡井崇、堀 治、矢崎千秋、仲野良介、佐々木謙司、中山崇、西 望、一宮和夫、鎌田周作、山辺徹、石丸忠之、今村定臣、藤井裕、渡辺文夫、古橋信晃、高林俊文

議事録：

まず分科会長の挨拶があり、引き続いて以下の順序にて各大学より10分間の研究発表があり、活発な討論がなされた。

1. 卵胞発育に関する実験的研究
（和歌山医大）仲野良介ほか
2. 多胎妊娠予防のための基礎的臨床的研究
（群馬大）五十嵐正雄ほか
3. 15年間における多胎妊娠の臨床統計とその解析
（東京大）木下勝之ほか

4. 超音波断層法によるヒト卵胞発育過程の観察とその臨床応用
(東京大) 木下勝之ほか
5. HMG投与時のホルモン動態について
(長崎大) 山辺徹ほか
6. 東京医科歯科大学における多胎妊娠の統計観察および新尿中 estrogen 定量法によるモニタリングについて
7. Gonadotropin療法における多胎妊娠と卵巣過剰刺激症候群の予知予防について
(大阪大) 倉智敬一ほか
8. 多胎児の発育成長に関する研究 歯科的検討その他
(日本大) 馬場一雄ほか

引き続き昭和56年度の研究方針の検討を行った。まず大阪大学からは各種排卵誘発剤による多胎妊娠率、流早産率、奇形発生率についての全国集計を行い、またHMG-HCG投与時の卵胞発育を血中 estrogen のRIAと超音波断層法によりモニターしたいとの方針が述べられた。続いて東京大学より多胎妊娠による早産未熟児の出生の予防法、卵胞発育の超音波によるモニター、単一排卵機序に関する基礎実験を行いたい旨の発言があった。

群馬大学は今年度提唱したHMG-HCG療法の新しいスケジュールの裏付けをするとともに、HMGの化学的精製を行ってよりFSH作用の強い製剤を作り多胎の防止を試みたいとの発言があった。和歌山医大からはラットをあらかじめ下垂体摘除してのちに、PMS-HCG排卵に及ぼすclomipheneの効果を確認したいとの意志が述べられた。

東京医歯大からはHMG-HCG療法のモニターとして尿中estrogenの簡易定量法を続けて行うとともに、卵巣過剰刺激症候群が起った際にLH-RH analogを投与して効果をみたいとの発言があった。長崎大からは高速液体クロマトグラフィーによるestrogenの簡易測定法の開発、卵巣過剰刺激症候群とprolactinの関係を調べ、bromocriptine投与、HMGの隔日投与法の試みなどを行いたい旨報告された。

続いて幹事校の東北大学より事務連絡に関する説明が行なわれ、散会した。

母体感染症分科会議事録

分科会長名：国立仙台病院臨床研究部 沼崎義夫

日時：昭和55年10月2日 13:00～15:00

場所：仙台市宮城野2丁目8-8

国立仙台病院 第1会議室

出席者：

- 吉野 亀三郎 (東大医科研ウイルス研究部) 班員
- 川名 尚 (東大医学部産婦人科) 研究協力者
- 千葉 峻三 (札幌医大小児科) 研究協力者代理
- 松本 慶蔵 (長崎大熱研内科) 班員
- 沼崎 義夫 (国立仙台病院臨床研究部) 会長・班員
- 亀井 喜世子 (帝京大医学部寄生虫) 研究協力者